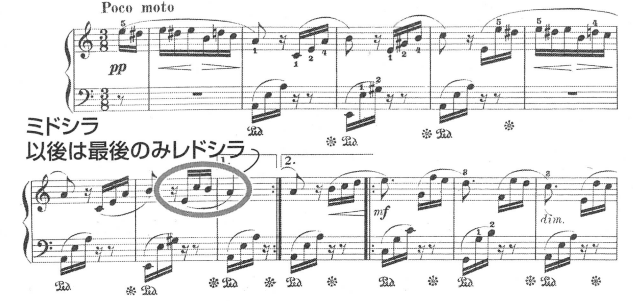
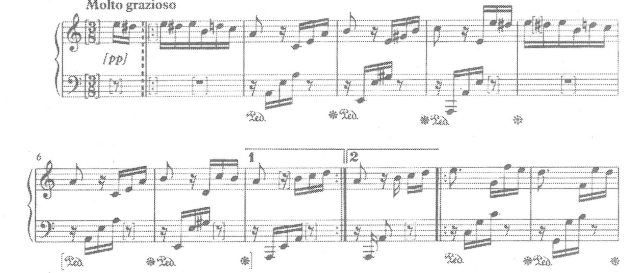


【譜例6】全音ピアノピース
ベートーヴェン：エリーゼのために



(校訂者記載なし、全音楽譜出版社、おそらく1956)
全音楽譜出版社刊「ベートーヴェン：エリーゼのために」より転載許諾済み

【譜例7】1922年の修正を想像的に完成させたもの



Beethoven: Three Bagatelles 第3曲
(Barry Cooper 校訂、Novello社、1991)

は、ほかならぬ「ミドシラ系」ということになるでしょう。

さまざまな事情を理解し
自分で答えを出すことが大事

す。作曲者の頭の中だけで鳴り響いているだけの音楽は、その作曲家個人にとって意味のあるものであっても、社会や文化全体にとっては存在しないのと変わりありません。逆に、いくら作曲者の意図から外れていようと、それを演奏しそれを支持する聴衆がいる限り、その音楽は立派に意味のあるものとして存在しているのです。そのことを否定する権利は誰にも（たとえ作曲家本人でさえも）ありません。作品は、社会的存在として演奏され聴かれる限り、「みんなのもの」です。そういう考え方に立てば、歴史的な実体として、音楽史に貢献してきた《エリーゼ》

「ミドシラ系」が絶対的に「正しい」と言っているわけでもありません。ヘンレ版が登場して半世紀以上たった今、「レドシラ」もまた歴史の中にしっかりと根付こうとしています。「ミドシラ系」も「レドシラ」も、どちらも存在の意味はある。大事なことは、こうした事情を理解し、自分で答えを出すことです。たまたま手に取った楽

譜にこう書いてあるからそれをそのまま演奏する、この本にこう書かれてあるからそのように弾く、ではなくて、作品にまつわるさまざまな事情を理解し、その上で自分がどうするかを決める、そういう態度が大事なのです。初期の原典版の編集者たちは、「ある作品の一番正しい姿」を追求しようとしてきました。でも最近の原典版では、作曲者が残したいくつもの可能性を並列的に提示し、ユーザーに判断させるものが増えてきています。いまや楽譜編集にとつて一番大事なことは、ユーザーが判断するための情報をきちんと提供することだ、といつて良いでしょう。譜例6は、おそらく今の日本で学習者が一番手にしやすいであろう全音楽譜出版社のピースです。値段も比較的安く、どこでも（町の本屋さんでも）買うことができます。日本における《エリーゼ》の普及に最も貢献している楽譜といつても良いかもしれません。主題の終わりは「最後以外ミドシラ」です。原典版である譜例4や譜例5と比べると明らかのように、ほぼ全ての小節に施されたレガート（フレイジング）の弧線や1小節目と5小節目のクレシエンド・デクレシエンド記号などは、誰かの追加です。困ったことに、この楽譜だけ見ていたのではそれが追加であることが分かりません。追加したのは誰なのかも分かりません。本来なら楽譜の出版社が責任をもってそうし

た情報を提供すべきなのですが、この場合はそうではない。だとすれば、ユーザーが自分で、いろいろな楽譜を比較したり文献を調べたりして必要な情報を集め、判断していくしかありません。実際に使う学習者が自分で判断できない場合は、先生がそのお手伝いをしてあげるべきでしょう。最後に1つ珍しい楽譜を紹介しておきましょう。ベートーヴェンは作曲から14年たった1822年、おそらく出版をもうろんでこの曲を改訂しようとして、譜例1のスケッチに青鉛筆で修正を加え始めました（前々回を参照）。結局この改訂は完成しなかったのですが、これを完成させ、出版までしてしまった人がいるのです。イギリスの研究者バリー・クーパー。譜例7がその楽譜です。これこそ真正正銘、ベートーヴェンの頭の中でだけ鳴り響き、まとまった作品としての形では一度たりともこの世に存在したことのなかったもの。いや、正しくは「ベートーヴェンの頭の中で鳴り響いた」とクーパーが想像したものの、といふべきでしょう。これを「ベートーヴェンの作品」として出版してしまうのは、いささか問題だと言わざるをえません。知的なバズルとしては興味深くとも、これが《エリーゼ》の新しい形として世に受け入れられることは、まずないでしょう。

不定期連載
ムジカノーヴァ
子ども音楽塾

第12回
レガートが難し
いのはなぜ?
むずか

文 岳本恭治
イラスト 駿高泰子

みんなは、リコーダーを演奏したことがあるよね？ リコーダーは、息が続く限り音を伸ばし続けることができる。
ピアノはどうだろう？

いくら鍵盤をギューと強く押さえても、音はどんどん弱く（小さく）なっていくばかり。そして、ついには完全に音が消えてしまうよね。
一度出たしまった音を、クレッシェンドすることはできないし、

自分の思い通りにデクレッシェンドすることもできない。
どうしてピアノの音は、どんどん弱くなってしまふのだろう？

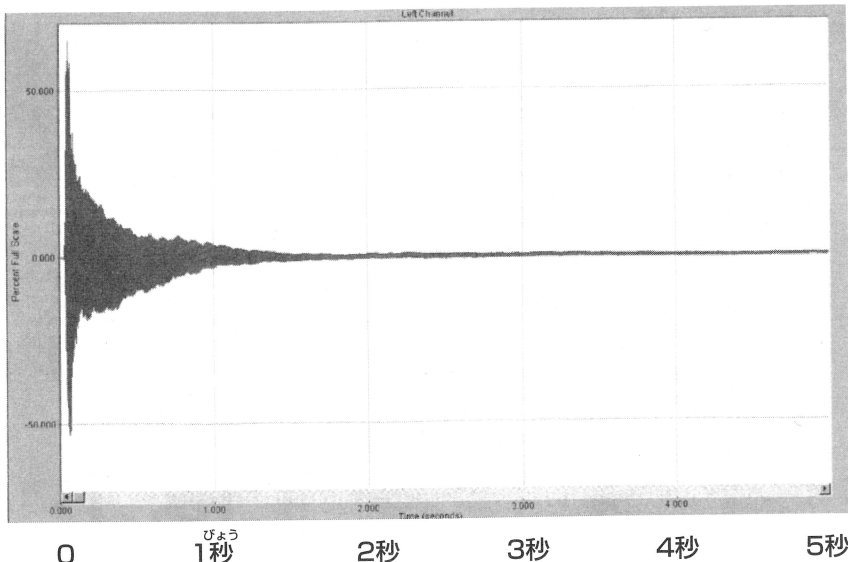
ピアノは、弦をハンマーで叩いて音を出す構造になっているよね。では、想像してみてください。目の前にヴァイオリンがあるとして、その弦を弓でこするのではなく、木琴のバチ（マレット）で叩いたら、どうなるだろう？



う？
ピアノの弦をハンマーで叩くと、
うのは、これに似ているよね。

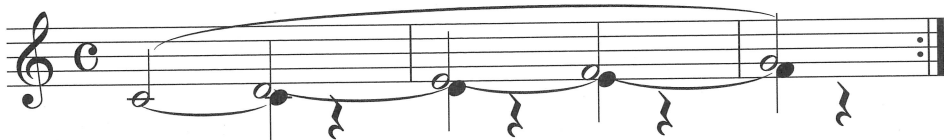
ここで次のページの図Aを見てください。これは何を表した図か、わかるかな？ 実は、ピアノの音が出た瞬間から消えていくまでを示した図なんだ。黒い部分の幅が広いほど、大きく振動して（揺れて）いて、音は強い（大きい）。ということは、弦はハンマーで叩かれた瞬間、もつとも大きく振動して、もつとも大きな音を出す。

そしてすぐに振動は小さくなる。1秒後にはぐっと小さくなって、2秒後にはさらにもっと小さくなって、その小さい音のまましばらく鳴り続け、とうとう消えてしまふんだね。
このとき弦は、縦だけではなく、横（水平）にも揺れているんだよ。頭の中でイメージを膨らませられたかな？
ところでみんなは、レッスンのとき、先生から「レガートで弾きなさい！」とか、「音と音の間を切らないで、なめらかにつなげなさい！」とか、言われること、あるよね？
すぐにできるようにならなくても、落ち込まなくていいんだよ。なにしろ、ピアノで音をつなげてレガートに弾くのは、とても難しいんだ！
想像してごらん。ヴァイオリンの弦を弓でこすりながらレガートで演奏すると、バチで叩きながらレガートで演奏するのでは、

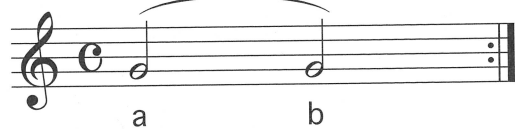
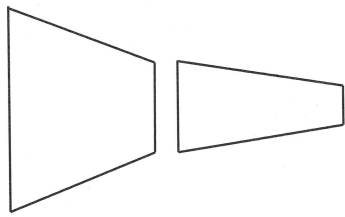


図A:『もっと知りたいピアノのしくみ』西口磯春・森 太郎 共著(音楽之友社)より転載

音を目で見よう!



譜例①



譜例②

どちらが難しいと思う? 叩きな
がらのほうがずっと難しいよね。
ピアノも弦をハンマーで叩いて音
を出す楽器だから、レガートが上
手に弾けるようになるには、そう
とう練習する必要があるんだ。
さつそく、2種類のレガート練
習をしてみよう!

レガート練習 A
重心移動して
音をつなげる練習

鍵盤を押しながらも音がどんどん弱くなってしまふピアノでは、ヴァイオリンのようなレガートを弾くのは不可能だ。でも、「レガート・カンテレーナ」(歌い上げるような究極のレガート)に似た表現をすることは、できるんだよ。

譜例①を見てください

20世紀の大ピアニスト、ウラディミール・ホロヴィッツが、歌い上げるようなレガートを弾くための練習方法をいくつか紹介しているんだけど、その中のひとつがこれ。とってもゆっくりなテンポから始める練習だよ。

- 1 まず、上体を真っ直ぐにして、肩、腕の付け根、上腕、肘、手首、指の付け根の余分な力を充分に取り除いて、1の指で「ド」の音を弾いてみよう。
- 2 このとき、指に手の重さが充

図B

譜例①

レガート練習 B
音をよく聴き、
音をつなげる練習

まず、どこか好きな鍵盤を押して耳をすましてみよう。図Aのように音が弱くなっていくのがわかったかな?
次に弾く音が、その弱くなった音よりも強く飛び出さないように気をつけて弾くと、響きがそろってなめらかになるんだよ。

図A

次に弾く音が強く飛び出さないためには、前に弾いた音が、次の音を弾く瞬間にどのくらい弱くなっているかをよく聴いて、次の音へと響きをつなげるように弾かなければならないんだ。

ピアノを弾くときには、出した音を聴かないで、次に弾く音のこまごまばかり考えてしまいがちだよ。この良くないクセを直さないと、レガートでなめらかな音を出すことはできないんだ。

次に図Bと譜例②を見てみ

図Aの「ソ」の音を2分音符分伸ばして、次にbの「ソ」の音を2分音符分伸ばしてみよう。このとき、1回目に弾いた「ソ」の音は、音を出したときより小さい音になっているよね。図Bのように、その小さくなった「ソ」の音と同じ強さで次の「ソ」の音を弾くこと!

音がどのくらい小さくなるか、何度も弾いて確認してから、次の音の強さを考えて弾く練習に入ろう。

ところで、弱い音をきちんと弾くためには、どうしたらいいと思う?

ピアノの音の強弱は、鍵盤を下げるスピードによって変化するんだ。
強い音を出すには? そう、すばやく鍵盤を下げて弾くんだね。弱い音を出すには、強い音の反対で、ゆっくりと鍵盤を下ればいいね。

とはいっても、鍵盤を1、2ミ

遅いテンポで練習しよう!

リ下げるような弾き方は、絶対にしてはいけない。弱い音で弾くと、響ききれいに揃わなかったり、音が鳴らなかつたりすることがあるよね。特別な弾き方が指示されているとき以外は、鍵盤は底まで(約10ミリ)ちゃんと押し下げないと、ハンマーがきちんと弦を打たないから、気をつけてね。それから、「弱い音を出さなくちゃ」と思うあまり、肩、肘、手首、指の付け根に余分な力が入らないように、こちらも充分気をつけよう。

ピアノの練習では、ゆっくり弾くことがとても大切なんだ! なぜだかわかるかな?

遅いテンポでばかり弾いていると、指を動かす筋肉をしつかり鍛えられて、指をしつかり動かすことができるようになるんだ。お家で練習するとき、このことをいつも思い出してね。

